今週の為替相場見通し（2019年7月16日）

総括表		先週の値動き				今週の予想レンジ		
		注	レンジ			終値		
米ドル	（円）		107.81	～	108.99	107.90	107.00 ～	109.00
ユーロ	（ドル）		1.1194	～	1.1285	1.1272	1.1150 ～	1.1350
（1ユーロ=）	（円）		121.53	～	122.31	121.58	120.00 ～	122.00
英ポンド	（ドル）		1.2439	～	1.2580	1.2580	1.2450 ～	1.2650
（1英ポンド=）	（円）	*	135.09	～	136.28	135.67	134.00 ～	137.00
豪ドル	（ドル）		0.6911	～	0.7025	0.7020	0.6920 ～	0.7070
（1豪ドル=）	（円）	*	75.19	～	75.92	75.77	74.50 ～	77.50

（データ）先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、*印の項目はブルームバーグ。

1．米ドル

為替営業第二チーム　岡本 明生

（1）今週の予想レンジ：　107.00 ～ 109.00 円

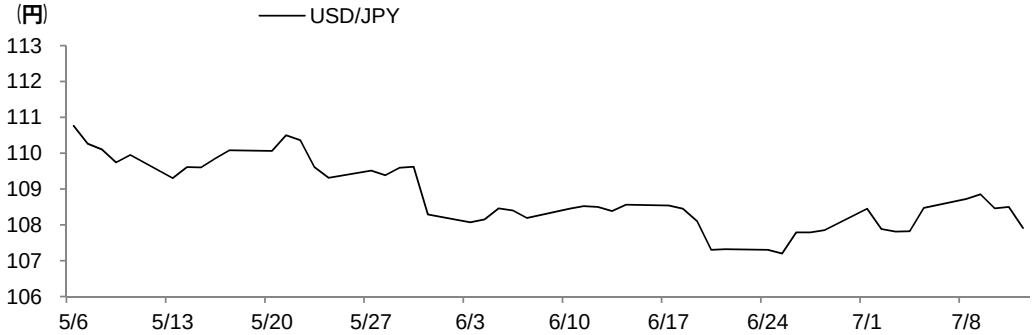
（2）ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のドル/円相場は方向感の定まらない展開。週初8 日、108 円台半ばでオープンしたドル/円は、前週末の米6 月雇用統計の良好な結果を好感した流れを引き継ぎ、米金利上昇も相俟って108 円台後半まで上昇。翌9 日にかけてもドル買い優勢地合いの中、翌日にパウエルFRB 議長の議会証言を控えポジション調整の動きも散見され、ドル/円は109 円近辺まで上値を伸ばした。10 日には、ドル/円は一時週高値となる108.96円をつけるも109 円乗せには至らず、パウエル議長の議会証言がハト派な内容であったほか、FOMC 議事要旨においても多くのメンバーがより強い利下げの根拠を認識したことが明らかになると米金利が低下し、108 円台前半まで急落した。11 日にかけても前日の流れを継続する中、イラン籍船舶がホルムズ海峡で英タンカーに接近したとの報道を受けて地政学リスクも意識され、ドル/円は一時週安値となる107.86 円まで値を下げた。その後は、米6 月消費者物価指数（CPI）が市場予想を上回ったほか、NY ダウ平均が最高値を更新する中で米金利上昇が上昇し、ドル/円は108 円台前半まで買い戻された。12日のドル/円は、108 円台後半に乗せる場面あるも伸び悩み。米金利がやや低下したこともあって、107.90レベルで越週した。

今週は、底堅い展開を予想する。米利下げはDone Dealとなっている状況で、市場は米指標を見ながら▲25bpか▲50bpかを探っている印象。米金利は落ち着き所を探る展開が当面続くと思われるが、徐々にボラティリティも低下していくと思われ、株やエマージング通貨などのリスク資産に再度資金が向かいやすいだろう。4-6月期の米企業決算が本格的に発表される週でもあり、その内容が余程崩れなければ利下げ幅は▲25bpとの目線に定まっていくと予想。ドル円もクロス円の買いを通じて107円台半ばでは底堅く推移するのではないか。緩やかに108円台に戻していく展開を予想する。20日からブラックアウト期間入りするため、FOMCメンバーの講演にも注意しておきたい。

（3）先週までの相場の推移

先週（7/8～7/12）の値動き：　安値 107.81 円　高値 108.99 円　終値 107.90 円



（資料）ブルームバーグ

2．ユーロ

為替営業第ニチーム　田家 裕介

⑴ 今週の予想レンジ：　1.1150　～ 1.1350　　120.00　～ 122.00　円

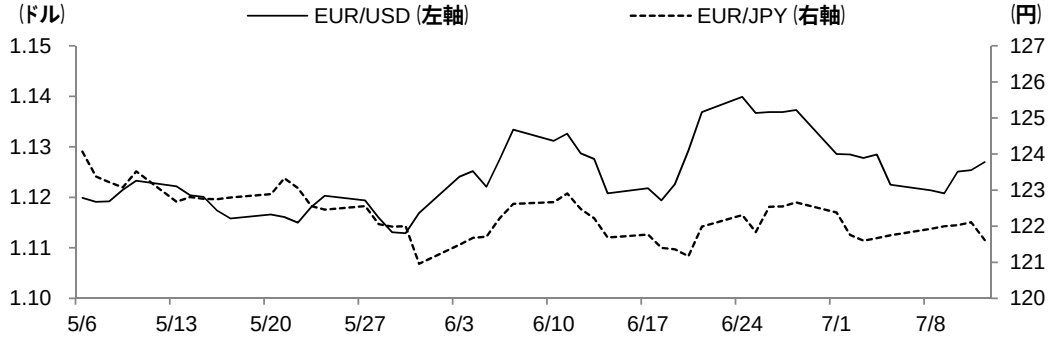
⑵ ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のユーロ/ドルは上昇する展開となった。週初8日、1.1220付近で取引を開始したユーロ/ドルは独5月鉱工業生産が予想対比悪化したことに加えて米金利が上昇したことから1.1207まで軟調推移。9日、イタリア5月小売売上高が大幅に悪化したことを受けてユーロ/ドルは週最安値1.1194まで続落。尚、レーンECB専務理事が「一段の緩和が必要であればECBには手段がある」と発言するも反応は限定的。10日、注目のパウエルFRB議長による議会証言では貿易摩擦の先行き不透明感から企業投資が弱くなってきていることが言及される等、ハト派な内容であったことからドル全面安の展開となったことでユーロ/ドルは1.1264まで大幅上昇。11日、ドル売り地合いが継続したことからユーロ/ドルは週最高値1.1285まで続伸するも米6月CPIが予想対比良好な結果となったことからドル買いの流れに反転し、1.1245まで反落。12日、やや値を戻す場面も見られたが、良好な米6月PPIの結果を受けてユーロ/ドルは1.1239まで反落。その後、FOMC高官や米財務長官がハト派な発言を述べたことからドル売りの流れとなったことで1.1274まで上昇し、同水準で越週した。8日、121.80付近で取引を開始したユーロ/円は週最安値121.53円まで下落する場面も見られたが、その後はドル/円が上昇したことから9日にかけてユーロ/円は122.13円まで上昇。10日にはユーロ/ドルが上昇したことを受けてユーロ/円は週最高値122.31円まで続伸するもドル/円が107円台まで下落する中、ユーロ/円も121.63円まで反落。その後は122円台を回復するも再度ドル/円が107円台まで下落したことからユーロ/円も連れ安の展開となったことで121.53円まで下落し、同水準で越週した。

今週のユーロ相場は対ドルで横ばい推移、対円では小幅に下落しよう。ドラギECB総裁の後任となる次期ECB総裁にはラガルドIMF専務理事が指名されている。これまで次期ECB総裁の後任候補とされていたタカ派のバイトマン独連銀総裁ではなくハト派とされるラガルド氏が指名されたことでECBによる追加緩和期待が高まろう。早ければ今秋にも追加緩和が発動されるとの見方が燻る中、ユーロに対して売り圧力が働くと考える。またドルに関しては7月末のFOMCで利下げが予想されている上、今後も段階的な利下げが予想されている中、ドルも売られやすい展開が続くと思料。一方でECBやFRBと比較して日銀は追加緩和の余地が乏しいとの見方が大勢であることから相対的には円が買われる展開を予想する。今週は主だった経済指標や中銀イベントが予定されていないことから市場の値動きは小幅なものになると予想するが、上述の理由からユーロ/ドルは軟調推移、ユーロ/円は上値の重い推移となろう。今週の重要指標は16日(火)にユーロ圏7月ZEW景気期待指数、17日(水)にユーロ圏6月CPI確定値の発表が予定されている。

⑶ 先週までの相場の推移

先週（7/8～7/12）の値動き：　（対ドル）安値 1.1194　高値 1.1285　終値 1.1272
（対円）安値 121.53　高値 122.31　終値 121.58



（資料）ブルームバーグ

3．英ポンド

欧州資金部　北原 亘

⑴ 今週の予想レンジ：　1.2450　～ 1.2650　　134.00　～ 137.00　**円**

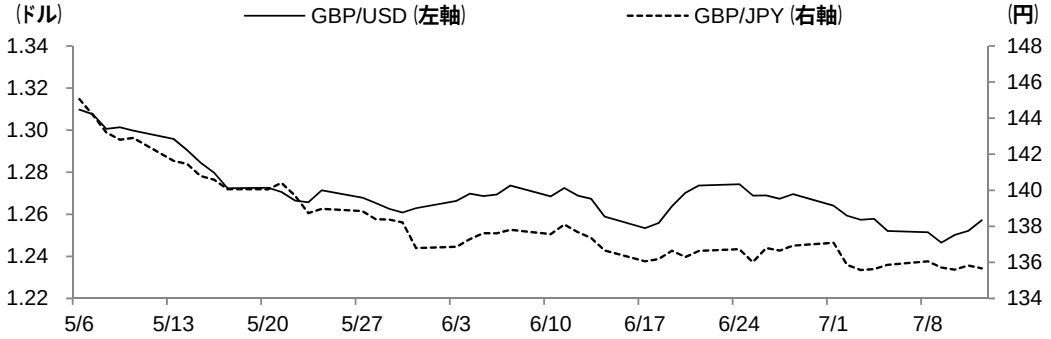
⑵ ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の英ポンド相場は、週半ばにかけてやや値を崩すも、週引けにかけては反発、値を戻して引けた。週初8日、英ポンドは1.2524でオープン。前週末の米雇用統計が市場予想を上回り、ドルの買戻しが優勢、英ポンドは上値の重い立ち上がりとなった。9日、親EU派のドミニク・グリーブ元法務長官ら、合意なき離脱阻止を目指す英保守党勢力は、実質的に次期首相が議会の同意なく、合意なき離脱を断行する目的で議会を休会できないようにすることを企図した修正動議を起案したが、「下院議長は修正動議を審議の対象には選ばない」との一部報道を受けて、合意なき離脱への懸念から英ポンドは週安値1.2439まで下落した。結局、同日夜に、修正動議は賛成294反対293とわずか1票差で可決。離脱期限10月31日を挟む、9月～12月の議会の開会が義務付けられ、「議会閉鎖による合意なき離脱の強硬」が回避された。これを受け、翌10日は英ポンドの買戻しが優勢。また、次期欧州委員長に指名されたフォンデアライエン独国防相が、「英国のEU残留を望む」、「英国がもっと時間を必要とするなら、それが正しいと信じる」と、10月31日の離脱期限の再延長に前向きな姿勢を見せたことも相場を下支えした。同日、米下院議会証言でパウエルFRB議長は、米中貿易協議の再開合意や、前週末の堅調な雇用統計を経ても、「（世界経済への懸念を強めている）金融当局の見解を変えていない」と断言、今月末FOMCでの利下げをあらためて示唆しドルが下落、英ポンドは一段高となった。翌11日も英ポンド買いが継続、一時週高値1.2571まで上昇するも、米6月CPIが市場予想を上回るとドルは買戻しが優勢となり、英ポンドは反落した。12日は、材料出尽くしで静かな値動き、1.25台半ばで週の取引を終えた。

今週の英ポンド相場は、方向感を欠いた膠着の展開を予想する。英保守党党首選は、ジョンソン前外相とハント外相の一騎打ちとなっており、直近の世論調査でもジョンソン前外相が圧倒的優勢を維持。新党首の発表は7月23日で、それまで英ポンドへの影響は限定的になると考える。一方、足元で英ポンド相場を動かしているのは欧米金融政策・経済指標であるが、今週は比較的材料に乏しい。先週10・11日のパウエルFRB議長の議会証言では、7月末FOMCにおける25bpの利下げが決定的となった。具体的には、パウエルFRB議長は、5日に議会へ提出した金融政策報告書とは異なり、インフレ率の低迷を「一時的」とは説明しなかった。また、景気の加速も減速も招かない中立金利について、従来の推計よりも低くなっているとし、金融政策がこれまで考えられていたほど緩和的ではないとの認識を示した。質疑応答では、6月の非農業部門雇用者数の伸びが市場予想を上回る力強さを示したことで金融当局の見解を変えたかと質問され、ノーと断言した。従来の「持続的な成長のため適正な行動をとる」との表現に加え、「インフレ率の低迷」や「中立金利の低下」に言及した今回の証言は明らかにハト派であり、利下げに向けた地ならしだったと解釈できる。一方、足元の欧米経済指標については、米6月雇用統計・CPI・PPI、独6月CPIなど、立て続けに市場予想を上回る結果が出てきており、市場の世界景気減速への警戒感はやや後退し、欧米金利は幾分か上昇し調整した。英経済指標では16日（火）に英5月雇用統計、17日（水）に英6月CPIの発表が予定されている。今月2日にカーニー英中銀総裁は、世界的な緊張の高まりに起因するリスクは増大していると、金融政策の様子見姿勢を強めており、経済指標が英ポンドの方向感に大きく影響を及ぼすことは期待できないだろう。

⑶ 先週までの相場の推移

先週（7/8～7/12）の値動き：　（対ドル）安値 1.2439　高値 1.2580　終値 1.2580
（対円）安値 135.09　高値 136.28　終値 135.67



（資料）ブルームバーグ

4．豪ドル

アジア･オセアニア資金部　シドニー室　原田 直彦

⑴ 今週の予想レンジ：　0.6920　～ 0.7070　　74.50　～　77.50　**円**

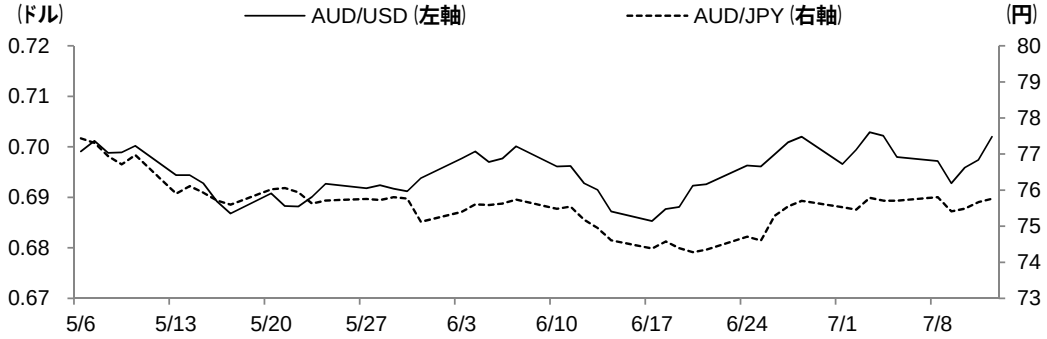
⑵ ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の豪ドル相場は0.69台を中心に上下する値動きとなった。週初、前週金曜日の強めの米6月雇用統計を受けてのドルの買い戻しの動きは継続し、主要通貨は対ドルで下落した。0.6980レベルで始まった豪ドルは、特段目だった材料の無い中で、0.69台後半で推移。米国時間、一段と米国金利が上昇する中で、ドル買いの流れが強まると、豪ドルは0.6970レベルまで下落した。9日、豪ドルは軟調な値動きが継続。豪6月NAB景況感指数は強弱入り混じった内容も、豪ドルは値を切り下げ、0.6950を割れると一段と下落幅を広げた。海外時間も、パウエル米FRB議長の議会証言を控えて、米国の利下げ観測が後退する中で、ドルの買い戻しの流れは続き、豪ドルは0.6920レベルまで下落した。10日、アジア時間は0.69台前半で小動きであったものの、海外時間に入り、パウエル議長の事前原稿が利下げを示唆する内容であったことから、主要通貨は対ドルで上昇。豪ドルも0.6960レベルまで上昇した。11日は、アジア時間は特段の材料はなく、小動きで揉みあい。海外時間で、ドル売りの流れが継続したことから、豪ドルはジリジリと買われて0.6980レベルまで上昇した。パウエル議長議会証言の二日目の内容は前日と同様であったものの、米国金利が大きく上昇した結果、ドル売りの流れは大きくは続かず、豪ドルも0.70台手前で頭を押さえられたが、12日にFRB高官から利下げ方針を確認する発言が出ると豪ドルは上値を伸ばし、0.70台を回復した。

今週の豪ドル相場は0.70を中心としたもみ合いを予想する。先週注目された米パウエルＦＲＢ議長の議会証言は利下げを示唆する内容で株式市場は上昇したものの、7月に入ってから金利はむしろ上昇しており、行き過ぎた利下げ観測の修正が米国で進んでいる。豪州においても金利の低下は一服しており、今後は利下げの適切なペースを探る展開となろう。豪州は先行き1年で1回強の利下げが織り込まれている状況であるが、タイミングについては見方が分かれる。既に2回実施した利下げの効果、また保守連合の総選挙勝利によるポジティブ効果が出て来るには時間がかかると思われ、これまで以上に経済指標には注目が集まる。特に来週は、18日（木）には、オーストラリア準備銀行(RBA)が重要としている豪6月失業率の発表が予定されており、雇用の内容に注目が集まる。中期的には豪州の利下げ余地が限定的な一方で、米国の利下げ余地が相対的に大きいことから、豪ドルの上昇を見込むものの、0.70を超えての豪ドルの上値は重いことも事実であり、今週は0.70を中心とした揉みあいをメインシナリオと考える。他には16日（火）に7月RBA議事録の公表が予定されている。ロウRBA総裁からは、緩和の限界に言及したコメントが足元で出て来ており、RBAでどのような議論が行われたかについても確認しておきたい。

⑶ 先週までの相場の推移

先週（7/8～7/12）の値動き：　（対ドル）安値 0.6911　高値 0.7025　終値 0.7020
（対円）安値 75.19　高値 75.92　終値 75.77



（資料）ブルームバーグ

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようにお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。